# Ⅲ 温排水影響調査結果(県実施分)

<令和元年度>

## Ⅲ 目 次

1	<b>広散調査 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·</b>
2	<b>流動調査 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·</b>
3	<b>水質調査 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·</b>
4	<b>氐質・底生生物調査</b> ······ Ⅲ-2
5	

## 令和元年度温排水影響調査結果

玄海原子力発電所から放出される温排水が、周辺の環境及び海洋生物に及ぼす影響を把握 するため調査を実施した。調査は夏季、冬季に行い、その調査結果の概要を以下に記載する。

令和元年度調査時の発電所の稼働状況としては、夏季調査時には3号機のみが稼働し(4 号機は定期検査)、冬季調査時は、3、4号機ともに稼働していた。1、2号機は運転を終了 しているため、いずれも温排水を放水していなかった。

なお、1、2号機は表層放水方式、3、4号機は水中放水方式である。

### 1. 拡散調査

夏季 (9 月 11 日) の下げ潮時と上げ潮時の水深 1 m層における水温の水平分布を図 2-1 ~2、鉛直分布を図 3-1~2 に示した。また、冬季 (2 月 7 日) の調査結果を同様に図 2-3~4、鉛直分布を図 3-3~4 に示した。

水温の水平分布を見ると、水深 1mにおける夏季水温は  $27.0 \sim 28.6$  の範囲で、温排水の影響によって取水水温より 1C以上昇温した地点は確認されなかった。冬季水温は  $13.6 \sim 15.8$  の範囲で、取水水温より 1C以上昇温した地点は、放水口周辺で限定的に見られた。

水温鉛直分布図を見ると、夏季は 3、4 号機放水口に近い st. 90 の  $12\sim13$  m層付近で、取水水温に比べて 1 C以上の昇温が確認され、冬季は st. 90、36、35 の表層 $\sim13$  m付近にかけて、1 C以上の昇温が確認された。

### 2. 流動調査

夏季(9月27日)に実施した調査結果を表3、図4に示した。

その結果、干潮時 St. 36 の 3、4 回目調査の干潮時に、主として南西へ向かう 10~20cm/s の流れがみられたが、それ以外の調査点では明確な傾向はみられなかった。

#### 3. 水質調査

水温:  $10.8 \sim 15.1 ^{\circ}$  、pH:  $8.21 \sim 8.26$  、DO:  $8.35 \sim 10.82 \text{mg/L}$  、濁度:  $0.6 \sim 24.6 \text{mg/L}$  、クロロフィルーa:  $0.9 \sim 5.2 \mu \text{g/L}$  であった。

このうち、冬季調査の濁度がこれまでにない高い値を示し、その傾向は放水口側で顕著であった。

現地調査当日の肉眼による目視観察では、海面に植物プランクトンの発生を確認しており、また、採水したサンプルを顕微鏡で観察したところ、このあたりでよく見られる珪藻であるタラシオシラ属の群体が多数確認された一方、泥の粒子等はほとんどなかった。このことから、この濁度上昇の原因は、タラシオシラ属の一時的な増殖による影響であると考えられた。

### 4. 底質・底生生物調査

夏季 (8 月 23 日) に実施した底質調査結果を表 5 に、COD の経年変化を図 6 に、底生生物調査結果を図 7 に示した。底質の中央粒径は  $0.2\sim1.2$ mm、COD は  $1.0\sim6.1$ mg/g 乾泥の範囲であった。

底生生物は環形動物(多毛類)のゴカイ類、節足動物(甲殻類)のソコエビ類やヨコエビ類が多くの地点で確認され、この結果は過去の出現傾向と同様であった。

#### 5. 付着生物調査

夏季(8月1日、2日)に実施した調査結果を表 6-1、図 8-1 に、冬季(2月24日、25日) に実施した調査結果を表 6-2、図 8-2 に示した。

その結果、夏季、冬季ともに、動物では、腹足類(巻き貝)のカサガイ類やタマキビ類、 甲殻類のフジツボ類が多くの地点で確認された。また、植物では、褐藻類のヒジキ、紅藻類 の無節石灰藻が多くの地点で確認された。これらの結果は過去の出現傾向と同様であった。

#### 6. まとめ

令和元年度夏季には、放水口直近 st.90 の 12~13m層、冬季には、放水口付近の st.90、36、35 の水深 0~13m層で1 度以上の昇温域が確認されたものの、範囲は限定的であった。 冬季に 3、4 号機放水口付近で、濁度の観測値が例年より高い値を示したが、これは、植物プランクトンの一時的な増殖によるものである可能性が高く、周辺海域でも植物プランクトンの増殖が確認されているため、温排水が要因である可能性は低いと考えられる。その他水質・底質・底生生物・付着生物の調査結果に関しては、過去の変動の範囲内であった。

表1 調査実施状況

項目	調査月日	内容	調査 点数	観測層	調査方法および使用機器	摘要
拡散調査		水温塩分	74	水温:0.3(表層), 1,2,3,4,5,7,10 15,20m 塩分:0.3(表層) m	<ul><li>・水温、塩分:多項目水質計 による現場測定</li><li>(JFEアドバンテック社 ASTD-102)</li></ul>	図2-1~4 図3-1~4
流動調査	9月 27日	流向 流速	5	0.3(表層),5,10, B-1(底層)m	・流向・流速計による現場測定 (JFEアドバンテック社 AEM213-D型)	表3 図4
水質調査	8月 23日 2月 20日	水温 p H D O 濁度 クロロフイルーa	5	0.3(表層),5,10, B-1(底層)m	<ul><li>・水温、DO、濁度:多項目水質計による現場測定</li><li>(JFEアドバンテック社 ASTD-102)</li><li>・pH:卓上測定器による測定(TOA-DKK社 卓上pH計)</li><li>・クロロフィルーa:蛍光法</li></ul>	表4-1~2 図5-1~2
底質·底生 生物調査	8月 23日	粒度組成 COD ベントス	10	海底土	<ul><li>・粒度組成:ふるい分け法</li><li>・COD:アルカリ性法</li><li>・ベントス:マクロベントスについて定量・同定</li></ul>	表5 図6 図7
付着生物 調査		動物植物	10	潮間帯	・ベルトトランセクト法 岸側各点から海方向にメジャーを伸 ばし、1.5 m毎に50 cm枠の中の種 類、数量(被度)を調査	表6-1~2 図8-1~2

表2 拡散調査における出力及び環境等の状況 九州電力資料

	[夏 季]		拡 散 調	查				
	[复 字]		下げ潮時	上げ潮時				
調	査 年 月 日	1	令和元年	令和元年9月11日				
誹	査 時 間		11:52~13:15	15:06~16:31				
	1号機	MW	-	-				
出力	2号機	MW	0	0				
山刀	3号機	MW	1,198~1,200	1,199~1,204				
	4号機	MW	0	0				
取水口	1、2号機	$^{\circ}$ C	27.4~28.0	28.5~28.8				
水温	3、4号機	$^{\circ}$ C	26.3~27.4	$25.9 \sim 27.4$				
放水口	1、2号機	℃	27.1~27.7	27.7~28.7				
水温	3、4号機	℃	28.1~34.1	28.1~34.2				
取放水口	1、2号機	$^{\circ}$ C	0.3~0.5	0.1~0.8				
水温差	3、4号機	$^{\circ}$ C	1.4~6.8	1.4~6.5				
	風向·風速	m/s	W2.9∼W3.8	WNW3.0~WNW3.4				
F #	月齢 <sup>※1</sup>	日	11	.7				
気象 海象等	潮位**2	m	0.7~1.3	0.7~0.9				
14%守	気温	$^{\circ}\!\mathbb{C}$	28.8~29.5	29.2~29.7				
	塩分 <sup>※3</sup>		31.9~33.0	31.7~33.1				

	[冬 季]		拡 散 調	查			
	[令 字]		下げ潮時	上げ潮時			
調	査 年 月 日	1	令和2年	三2月7日			
語	査 時 間		11:59~13:06	15:21~16:24			
	1号機	MW	-	-			
出力	2号機	MW	0	0			
ЩЛ	3号機	MW	1,210~1,211	1,209~1,210			
	4号機	MW	1,196~1,197	1,196~1,197			
取水口	1、2号機	$^{\circ}$ C	14.7~14.7	14.7~14.8			
水温	3、4号機	$^{\circ}$ C	14.8~15.0	14.8~15.0			
放水口	1、2号機	$^{\circ}$ C	14.7~14.7	14.7~14.7			
水温	3、4号機	℃	21.7~21.9	21.8~21.9			
取放水口	1、2号機	$^{\circ}$ C	0.0	0.0			
水温差	3、4号機	$^{\circ}$ C	6.9~7.0	6.9~7.0			
	風向·風速	m/s	S1.9~SSW2.2	SW1.2~SW1.6			
F 4.	月齢 <sup>※1</sup>	日	13	3.2			
気象 海象等	潮位**2	m	0.84~1.08	0.86~1.65			
(再)《守	気温	$^{\circ}\! \mathbb{C}$	9.8~10.2	9.7~10.0			
	塩分 <sup>※3</sup>		34.2~34.4	34.2~34.4			

※1:国立天文台天文情報センター ※2:気象庁

※3:玄海水産振興センター

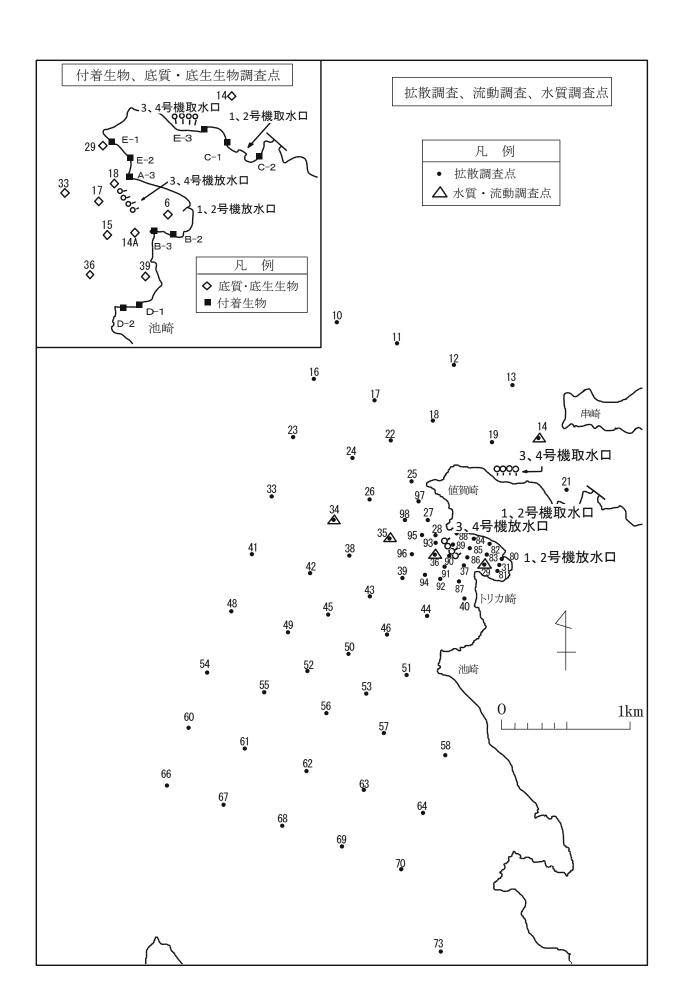


図1 調査点図

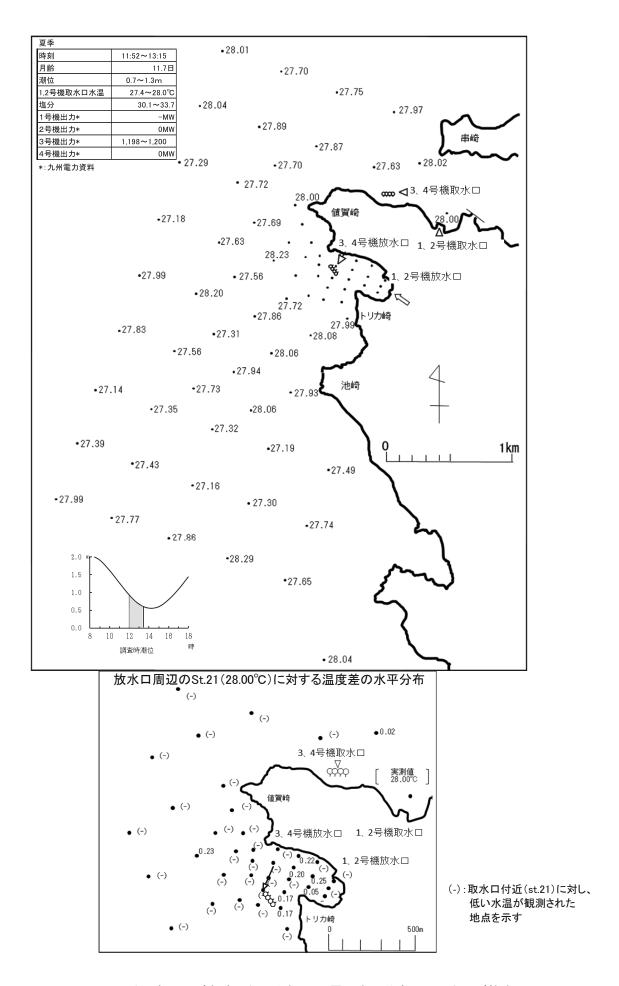


図2-1 夏季調査の下げ潮時における水深1m層の水温分布(上段)および放水口 周辺の水温差分布(下段)

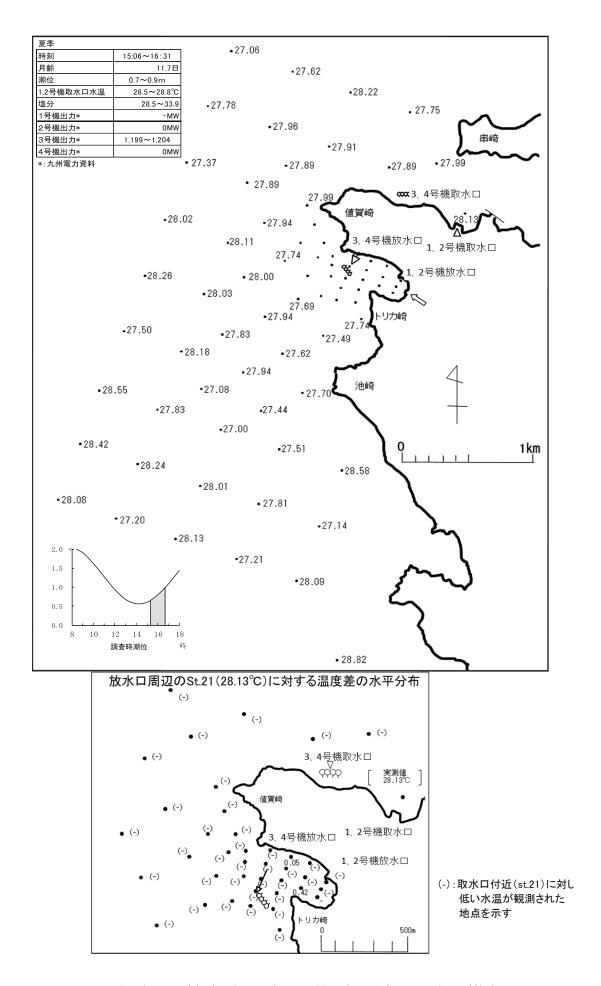


図2-2 夏季調査の上げ潮時における水深1m層の水温分布(上段)および放水口 周辺の水温差分布(下段)

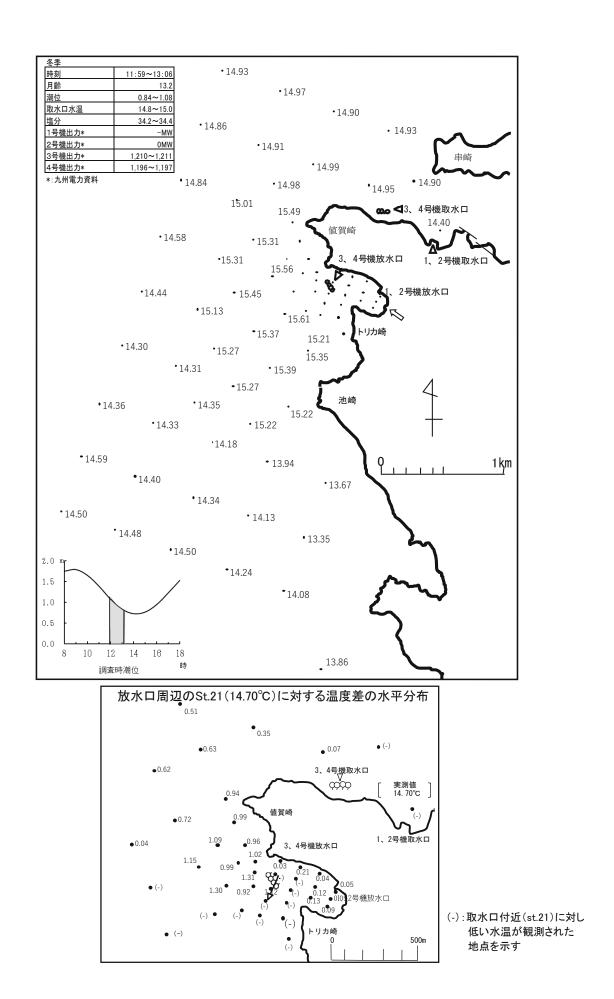


図2-3 冬季調査の下げ潮時における水深1m層の水温分布(上段)および放水口 周辺の水温差分布(下段)

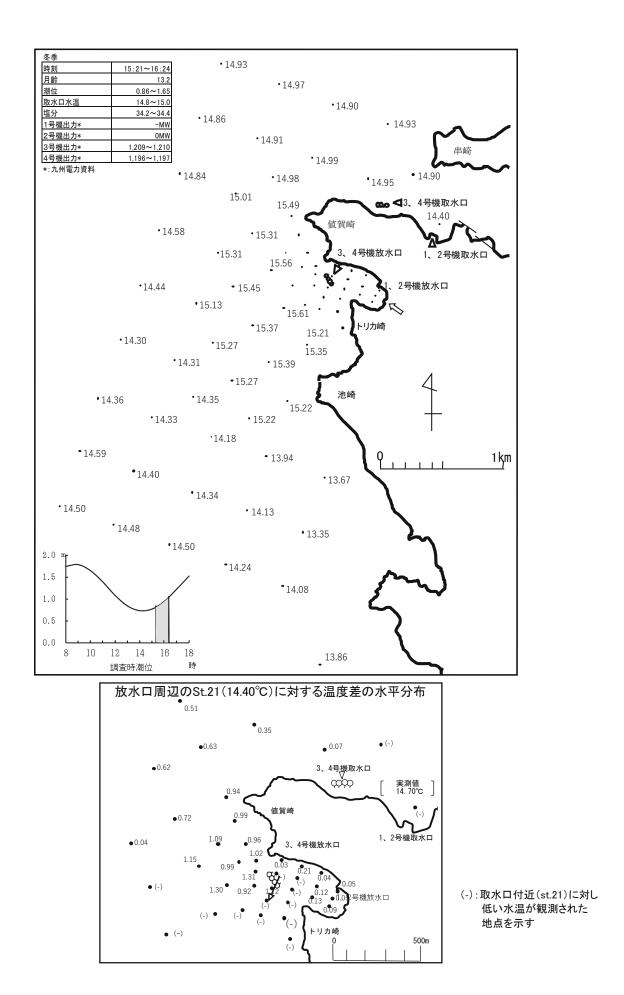


図2-4 冬季調査の上げ潮時における水深1m層の水温分布(上段)および放水口 周辺の水温差分布(下段)

#### 水温鉛直分布調査ライン

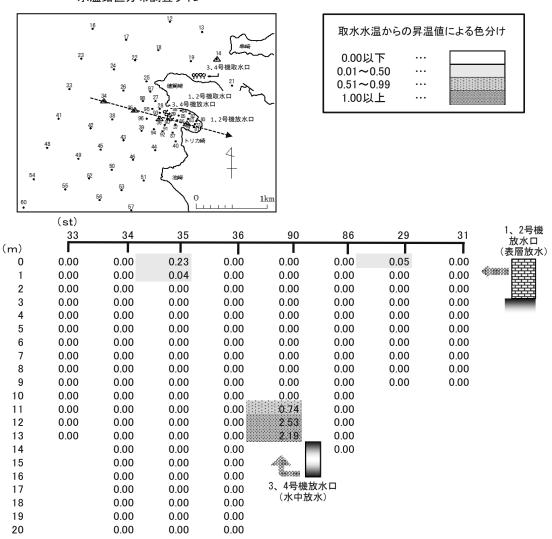


図3-1 夏季下げ潮時における水温鉛直分布

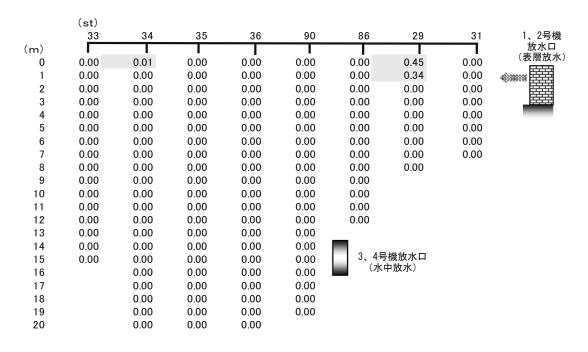


図3-2 夏季上げ潮時における水温鉛直分布

#### 水温鉛直分布調査ライン

20

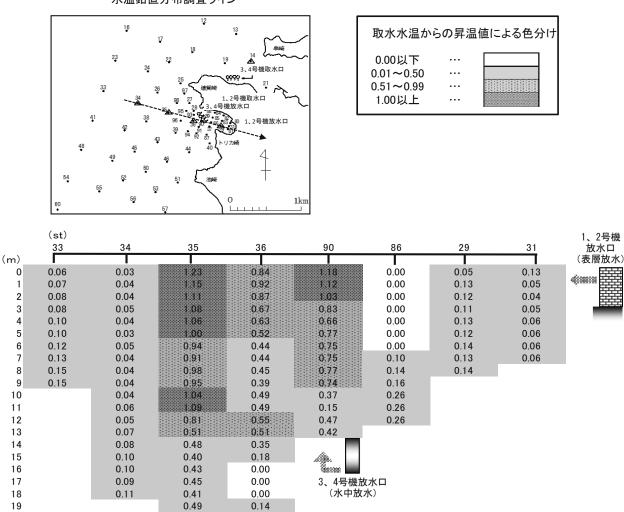


図3-3 冬季下げ潮時における水温鉛直分布

0.31

0.45

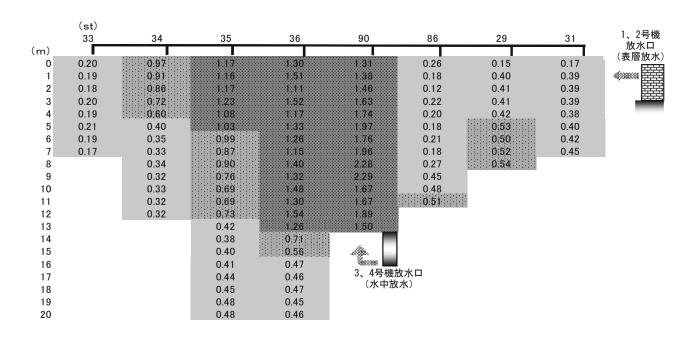


図3-4 冬季上げ潮時における水温鉛直分布

表3 夏季流動(流向·流速)調査結果

令和元年 9月27 日(月齢27.7日)

調査	回次	1回	目	2		3回		4回目		
	時間	10:00~			~12:20		~13:45		~15:50	
調査点	観測層	流 速 (cm/s)	流 向 (度)							
	表層	10	30	5	210	0	_	10	40	
St.14	5m	15	180	5	50	0	-	5	300	
31.14	10m	20	260	5	120	0	1	10	280	
	底層	5	50	5	100	5	300	15	230	
	表層	5	30	5	310	15	330	10	230	
S+ 21	5m	5	200	10	300	10	350	5	230	
St.34	10m	5	60	0	-	5	120	0	-	
	底層	0	-	5	180	5	160	5	190	
	表層	5	170	10	200	5	300	5	80	
St.35	5m	5	200	10	300	5	270	10	20	
31.30	10m	5	90	0	_	10	350	0	_	
	底層	10	110	5	240	10	330	0	_	
	表層	10	150	10	260	20	230	10	240	
St.36	5m	5	190	5	210	10	200	20	240	
31.30	10m	10	290	5	340	10	120	10	210	
	底層	0	_	5	240	5	80	5	320	
	表層	10	80	10	210	5	290	5	250	
St.29	5m	5	60	0	_	15	270	10	160	
	底層	0	_	5	130	10	50	15	190	

九州電	力資料	1回目	2回目	3回目	4回目
風向・風	速(m/s)	NE3.4	NE3.5~NNE3.0	NNE3.8	NNE4.1~NE6.1
	1号機	_	_	_	_
出力	2号機	0	0	0	0
(MW)	3号機	1,208	1,209	1,209~1,210	1,208
	4号機	0	0	0	0
1~4号機	の合計放水	量(1時間あたり平	均値) 103.2	$m^3/s$	

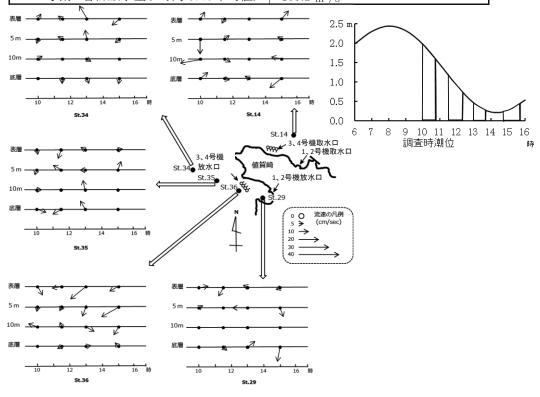


図4 夏季流動(流向・流速)調査結果

表4-1 夏季水質調査結果

(令和元年8月23日)

		T		( 14	147607179 H /							
	取水口側		放水口側									
調査点	St.14	St.29	St.36	St.35	St.34							
項目	(1、2号機 取水口付近)	(1、2号機 放水口付近)	(3、4号機 放水口付近)	(3、4号機 放水口沖)	(3、4号機 放水口沖)							
水温 (℃)	$26.1 \sim 26.7$	$26.4 \sim 26.5$	$25.3 \sim 26.8$	$24.3 \sim 26.7$	$24.4 \sim 26.8$							
рН	8.28 ~ 8.32	8.30 ~ 8.32	8.32 ~ 8.34	8.30 ~ 8.33	$8.30 \sim 8.34$							
DO (mg/L)	$6.83 \sim 7.04$	$6.76 \sim 7.00$	$6.12 \sim 6.96$	$6.63 \sim 7.01$	$6.16 \sim 6.90$							
濁度 (mg/L)	$0.3 \sim 0.4$	$0.2 \sim 0.3$	0.3 ~ 0.3	0.3 ~ 0.3	$0.2 \sim 0.6$							
クロロフィルーa (μg/L)	$2.9 \sim 6.5$	$3.1 \sim 3.6$	$3.1 \sim 4.9$	1.1 ~ 4.5	$0.5 \sim 2.9$							
<b>大深(m)</b> 20		10	20	31	40							

表示は、0.3(表層),5,10,B-1(底層)mの測定値の範囲[最低~最高]を示す。

取水口側 St.14

放水口側 St.29

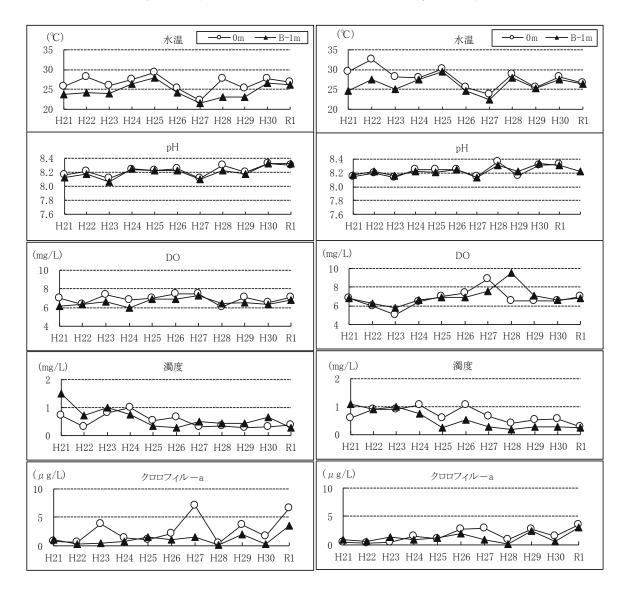


図5-1 夏季水質調査の経年変化

表4-2 冬季水質調査結果

(令和2年2月20日)

	取水口側		放 水 口 側									
調査点	St.14	St.29	St.36	St.35	St.34							
項目	(1、2号機 取水口付近)	(1、2号機 放水口付近)	(3、4号機 放水口付近)	(3、4号機 放水口沖)	(3、4号機 放水口沖)							
水温 (℃)	13.9 ~ 14.4	14.1 ~ 14.3	10.8 ~ 14.8	14.4 ~ 15.1	$14.4 \sim 14.6$							
рН	8.22 ~ 8.25	8.21 ~ 8.25	8.23 ~ 8.25	8.24 ~ 8.26	$8.25 \sim 8.26$							
DO (mg/L)	$8.35 \sim 8.70$	8.39 ~ 8.81	$8.43 \sim 10.82$	8.44 ~ 8.96	$8.35 \sim 8.70$							
濁度 (mg/L)	0.6 ~ 0.8	$5.8 \sim 15.5$	$0.6 \sim 24.6$	$0.7 \sim 20.6$	$0.7 \sim 0.8$							
クロロフィルーa (μg/L)	$0.9 \sim 1.4$	1.9 ~ 2.3	$1.6 \sim 2.8$	$1.5 \sim 2.5$	$1.4 \sim 5.2$							
水深(m)	22	11	21	31	41							

表示は、0.3(表層),5,10,B-1(底層)mの測定値の範囲〔最低~最高〕を示す。

取水口側 St.14

放水口側 St.29

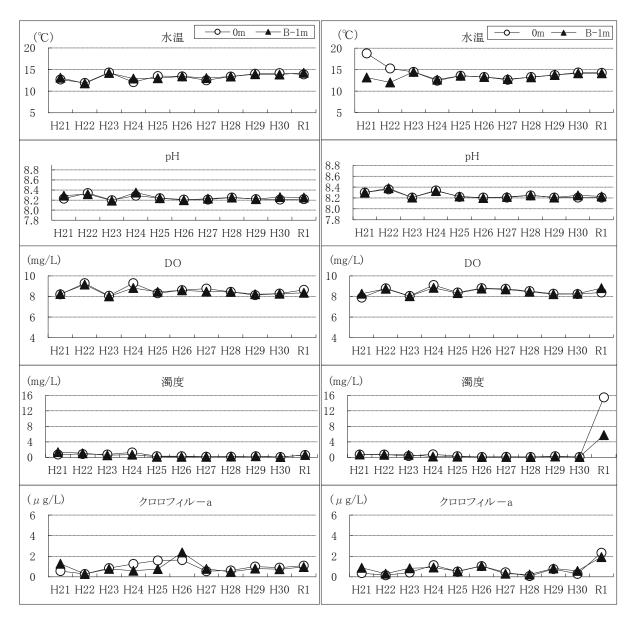


図5-2 冬季水質調査の経年変化

表5 夏季底質調査結果

(令和元年8月23日)

	調査点(St.)	取水口側				力	汝水 口 俳	IJ			
			6	14A	15	17	18	29	33	36	39
С	OD (mg/g乾泥)	1. 2	1. 3	1. 5	6. 1	1. 7	1. 0	2.8	1. 9	1. 7	2. 4
	礫 (2mm以上)	4	0	0	1	0	1	6	9	28	1
粒度	粗 砂 (2~0.425mm)	48	6	23	10	9	38	62	31	55	9
組成	細 砂 (0.425~0.075mm)	30	75	59	57	69	53	22	50	7	80
(%	シルト・粘土 (0.075mm以下)	18	19	18	32	22	8	10	10	10	10
中	央 粒 径 (mm)	0.4	0.2	0.3	0.2	0.2	0.4	0.3	0.3	1. 2	0.2

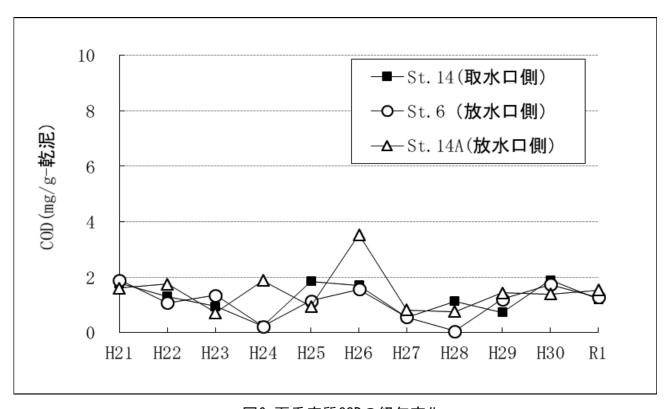


図6 夏季底質CODの経年変化

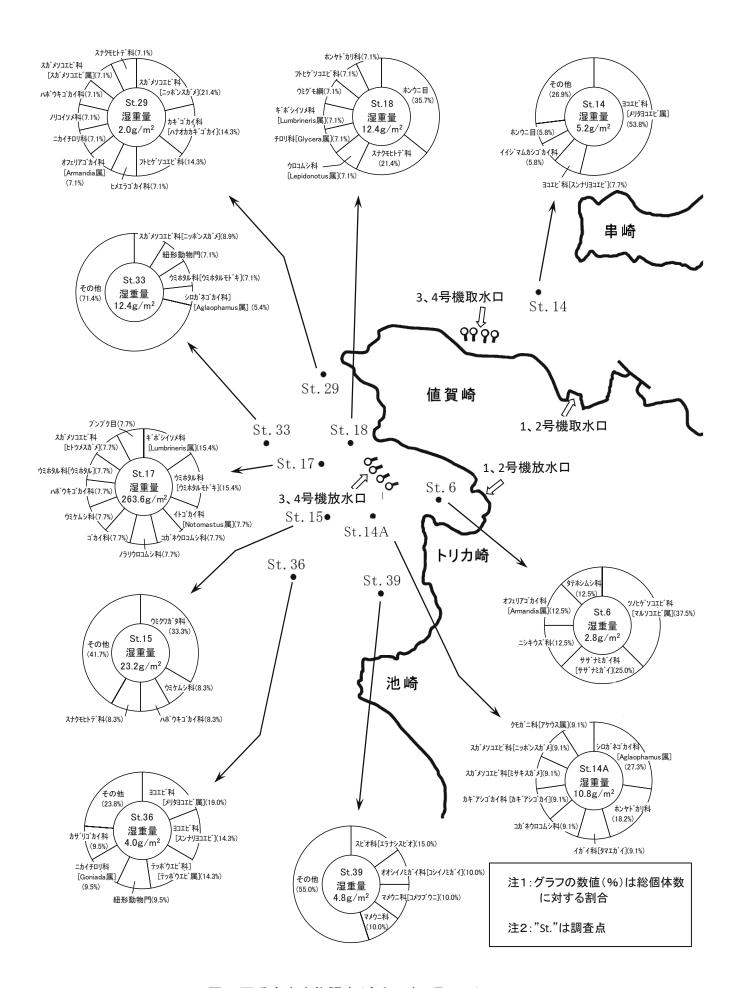


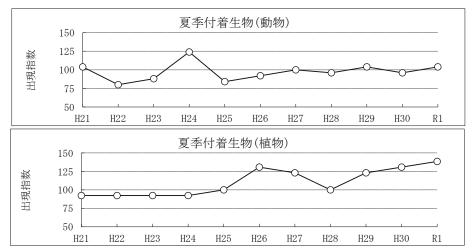
図7 夏季底生生物調査(令和元年8月23日)

潮間帯付近の動物

								調	査	測	線			
	種 類				A-3	B-2	B-3	C-1	C-2	D-1	D-2	E-1	E-2	E-3
刺胞動物門	花虫綱	イソキ゛ンチャク目		イソキンチャク目	r		r	С						r
軟体動物門	ヒサ゛ラカ゛イ綱	ヒサ・ラカ・イ目	ヒサ゛ラカ゛イ科	ヒサ゛ラカ゛イ	С	С	С		r			сс	r	С
			ケハタ゛ヒサ゛ラカ゛イ科	ケハタ゛ヒサ゛ラカ゛イ科		r	r	С		r		r		
軟体動物門	マキカ・イ綱	オキナエヒ、ス目	ツタノハ科	マツハ゛カ゛イ		r	С	r	r	С	С	С	r	r
				ヨメカ゛カサ	r	С	С	С	С	r	r	r		С
			ユキノカサ科	ウノアシ	r				r		С	r	r	
			ニシキウス 科	イシタ゛タミ		С	r	С		r			r	r
				クロヅケカ゛イ							r			
				クボガイ								r		
				クマノコカ・イ		r				r		r		
			リュウテン科	スガイ			r					r	r	
			アマオフ゛ネ科	アマカ・イ		r				r			С	
軟体動物門	マキカ・イ綱	ニナ目	タマキヒ゛カ゛イ科	タマキヒ゛		r	r					r	r	
				アラレタマキヒ゛	С	СС	СС	ccc	С	С	С	С	сс	С
				タマキピカイ科				сс						
			ムカテ゛カ゛イ科	オオヘビガイ	r									
軟体動物門	マキカ・イ綱	バイ目	アクキカ・イ科	シマレイシダマシ						r				r
				レイシガイ	r					r				
				イホ"ニシ	С	r	С	С	r	r		r	r	r
			エゾバイ科	イソニナ		r			С	r				
	ニマイカ・イ綱	ハマグリ目	イワホリカブイ科	イワホリカブイ科				С				r		
環形動物門	コ゛カイ綱	ケヤリ目	カンサ・シコ・カイ科	ヤッコカンサ゛シ	r	сс	r	r		r		r	r	r
節足動物門	甲殼綱	フシ゛ツホ゛目	ミョウカ゛カ゛イ科	カメノテ	r	r	r	r	r		r		r	r
			イワフシ゛ツォ゛科	イワフシ゛ツホ゛	сс		r		r				r	r
			フシ゛ツホ゛科	クロフシ゛ツホ゛	сс		сс	r	С		С	r	r	r
棘皮動物門	ウニ綱	ホンウニ目	ナガウニ科	ムラサキウニ	r			r		r				

I							調	査	測	線				
<u> </u>	種類				A-3	B-2	B-3	C-1	C-2	D-1	D-2	E-1	E-2	E-3
緑藻植物門	緑藻綱	アオサ目	アオサ科	アオサ属	r								r	r
褐藻植物門	同形世代綱	アミシ゛ク゛サ目	アミシケサ科	ウミウチワ	r					r			r	
				アミジグサ科	r					r				
褐藻植物門	異形世代綱	ナカ・マツモ目	イシゲ科	イシケ゛	r		С	r	r	r	r	С		r
		ハハ゛モト゛キ目	コモンフ・クロ科	イワヒケ゛	r				r					
褐藻植物門	円胞子綱	ヒバマタ目	ホンダワラ科	ヒシキ	r	r	r	r	СС	r	r	С		r
				ウミトラノオ	С	r	r	С				С	r	С
				イソモク	r					r		r		
紅藻植物門	真正紅藻綱	テングサ目	テングサ科	ヒメテンク゛サ	r	r	r	r	r	r	r	r	r	r
				テングサ科	r	С			r	С	r	r	r	r
紅藻植物門	真正紅藻綱	カクレイト目	サンコ゛モ科	モサスキ属	С		С	r	r	r		r		
				サンコ・モ亜科	С	r	r		СС	сс	сс	r		r
紅藻植物門	真正紅藻綱	スキ・ノリ目	キシブオ科	イソタ゛ンツウ								r		
			オキツノリ科	オキツノリ								r		
			スギノリ科	カイノリ						r				
				ツノマタ		r				сс	r			
紅藻植物門	真正紅藻綱	イキ"ス目	イギス科	作ス科						r		r		
			フジマツモ科	ソゾ属	r	r 5小是目			目にある			r		12 40 7

(注)r:極少量見られる c:少量見られる cc:普通に見られる ccc:多く見られる



出現指数は平成10年度の 総出現種類数(動物;25種、 植物;13種)を100としている

令和元年8月1日,2日

図8-1 夏季付着生物の出現指数の経年変化

州町市门近	7 20 10											14 1142	1 1 2/121	, n , = 0 n
								調	査	測	線			
	種類				A-3	B-2	B-3	C-1	C-2	D-1	D-2	E-1	E-2	E-3
刺胞動物門	花虫綱	イソキ゛ンチャク目		イソキ゛ンチャク目	С		r	r						r
軟体動物門	ヒサ・ラカ・イ綱	ヒサ・ラカ・イ目	ヒサラカイ科	ニシキヒサ゛ラカ゛イ			r	r						
				ヒサ・ラカ・イ	С	r	С	r	r	r		С		r
			ケハタ゛ヒサ゛ラカ゛イ科	ケハタ゛ヒサ゛ラカ゛イ科				r	r			r		
	マキカ・イ綱	オキナエピス目	ツタノハ科	マツハ゛カ゛イ	r		r	С	С	С	С	r	r	r
				ヨメカ゛カサ	r	С	С	r	С	r	С	С	r	r
			ユキノカサ科	ウノアシ	r	r	С	r	r		r	r	r	r
			ニシキウス 科	イシタ・タミ				r		r		r	r	r
				クロヅケカイ							r	r		
				クホ`カ`イ		r		r		r		r		
				クマノコカ・イ		r		r		r			r	r
			リュウテン科	スカ・イ								r	r	
		ニナ目	タマキピカイ科	タマキビ	r	С	r	r	r	С	r	r	r	r
				アラレタマキビ	СС	сс	сс	сс	сс	С	сс	С	сс	сс
				タマキビガイ科				С			С		С	r
			ムカデカイ科	オオヘビガイ	r									
		バイ目	アクキガイ科	イホ゛ニシ	С	r	r		r			r		r
環形動物門	コ゛カイ綱	ケヤリ目	カンサ・シコ・カイ科	ヤッコカンサ゛シ	r	С	r	r	r	r		r	r	r
節足動物門	甲殼綱	フシ゛ツホ゛目	ミョウカブカブイ科	カメノテ	r	r	r	С	r	r	r	r	r	r
			イワフジツボ科	イワフシ゛ツホ゛	сс	r	r		r			r	r	r
			フシ`ツホ`科	クロフシ゛ツホ゛	r		сс	r	r		сс	С	r	r
棘皮動物門	ウニ綱	ホンウニ目	ナガウニ科	ムラサキウニ	r		r			r	·			

潮間帯付近の	の植物											令和:	2年2月24	日,25日
								調	査	測	線			
種 類					A-3	B-2	B-3	C-1	C-2	D-1	D-2	E-1	E-2	E-3
緑藻植物門	緑藻綱	アオサ目	アオサ科	アオサ属	r							r	r	r
褐藻植物門	同形世代綱	アミシ゛ク゛サ目	アミシケサ科	ウミウチワ	r					r				
				アミシブがサ科	r			r	r	r	r	r		
	異形世代綱	ナカ・マツモ目	イシケ゛科	イシケ゛	r		С	С		r		r	r	r
		ハバモドキ目	コモンフ・クロ科	イワヒケ゛	r				r	r			r	r
			カヤモ川科	フクロノリ	r		r		r	r				
				ハバノリ類	r		r							r
	円胞子綱	ヒハ・マタ目	ホンダ・ワラ科	ヒシキ	С	r	С	С	С	С	С	С		r
				ウミトラノオ	r		r	r				r	r	r
				イソモク			r			r		r		
				ホンダワラ属								r		
紅藻植物門	真正紅藻綱	テングサ目	テングサ科	ヒメテンクサ	r		r	r		r		r	r	r
				テングサ科	r	r		r		С		r		r
		カクレイト目	サンコ・モ科	サビ亜科	СС	С	С	ccc	СС	СС	С	СС	r	СС
				サンコ、モ亜科	С	r	СС	С	СС	С	С	r		r
			フ川科	フクロフノリ							r	r	r	r
		イキ゛ス目	フジマツモ科	ソゾ属	r			r		r		r		
					(注)r:	極少量見	られる	c:少量.	見られる	cc:普	通に見ら	れる co	cc:多く見	られる

冬季付着生物(動物) 150 出現指数 100 50 H22 H24 H29 H30 H21 H23 H25 H26 H27 H28 R1 冬季付着生物(植物) 150 出現指数 100 50 H22 H23 H25 H26 H27 H28 H29 H30 R1 H24

出現指数は平成10年度の 総出現種類数(動物;25種、 植物;13種)を100としている

図8-2 冬季付着生物の出現指数の経年変化